

化学物質等安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名 : ダイミクロン
 推奨用途 : 放電加工油
 会社名 : 株式会社アマダ
 住所 : 神奈川県伊勢原市石田200
 TEL:0463-96-1111(代)

お問い合わせ先 : オイルセンター 技術グループ
 および緊急連絡先 TEL:048-710-4510 FAX:048-710-4517

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体 : 区分4(シンボル:なし、注意喚起語:警告)
 吸引性呼吸器有害性 : 区分1(シンボル:健康有害性、注意喚起語:危険)

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

- 可燃性液体
- 飲み込んで気道に浸入すると生命に危険のおそれ

注意書き

(予防策)

- 火、高温のものから遠ざけること。禁煙
- 環境へ放出を避けること
- 保護手袋および、眼 / 保護面を着用すること

(対応)

- 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること
- 無理に吐かせないこと
- 火災の場合、消火に水噴霧、泡、ドライ・ケミカルあるいは、炭酸ガス(CO2)を用いること

(保管)

- 換気のよい場所で保管すること。また、冷所に保管すること
- 施錠して保管すること

(廃棄)

- 廃液、容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託して下さい。

その他の有害性情報

物理的 / 化学的有害性

: この物質は、着火源となる静電気を蓄積する可能性がある。この物質は蒸気を発生し、速やかに可燃性混合物を生成することがある。また、蓄積した蒸気は、もし着火した場合、燃焼もしくは爆発する恐れがある。燃焼性。

人体への有害性

: 眼、鼻、のど、および肺を刺激する恐れがある。反復して暴露すると、皮膚の乾燥またはひび割れの原因となることがある。

環境危険有害物 備考

: 重大な危険性はない。
 : 本物質は専門家の助言なしで、セクション1の用途以外の目的で使用してはならない。研究によれば個人差はあると思われるが曝露により、人体に潜在的なリスクを与えることがある。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物
化学名又は一般名	: 脱芳香族炭化水素類
化学特性(化学式)	: 特定できない
成分および含有量	: 蒸留(石油), 水素化処理した軽質留分 100質量%
CAS No.	: 64742-47-8
危険有害成分	
化学物質管理促進法	: 対象物ではない
労働安全衛生法	: 通知対象物ではない
毒性劇物取締法	: 対象物ではない

4. 応急措置

吸入した場合	: 暴露を止めること。救助員は、自身あるいは他の人々が暴露するのを避けること。適切な呼吸用保護具を着用すること。もし呼吸障害、めまい、吐き気が起きたり、意識不明の状態に陥った場合は、直ちに医師の治療を受けること。呼吸が停止した場合は、機器等を用いて酸素吸入を試みるか、口対口の人工呼吸を行う。
皮膚に付着した場合	: 石鹼と水で接触した部分を洗浄する。汚染した衣服を脱ぐ。汚染した衣服を、再度使用する前に洗濯する。
目に入った場合	: 水で完全に洗い流す。もし刺激が治まらない場合は医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	: 直ちに医療機関の手当てを受ける。無理に吐かせてはならない。
医師への注意	: 経口摂取した場合、本物質は肺まで吸引され、化学物質による肺炎が起こることがある。適切に治療する。

5. 火災時の措置

消火剤	: 消火には噴霧水、泡、ドライケミカル、炭酸ガスを使う。
使ってはならない消火剤	: 直接の水噴射
消火方法	: その現場から避難させる。消火剤やその希釈剤が、水路、下水、あるいは上水道へ流入することを防ぐ。消防士は、標準の防護装備を使用し、建物内部やタンク内等では内蔵型呼吸機(SCBA)を用いる。火災にさらされた部分を冷却したり、人を火災から保護するために噴霧水を使用する。
異常な火災危険物質	: 引火性
有害な燃焼生成物	: 煙、煙霧、不完全燃焼時の生成物、炭素酸化物

6. 漏出時の措置

通知手順	: 流出または放出事故が起きた場合、すべての適用法令に従って関係当局に通知する。
人体に対する注意事項	: 流出物に触らない。当物質は有毒性または可燃性のため、必要なら、周囲および風下地域の住民に警告を与え、避難させる。 消火に関する情報はセクション5を参照。 重大な有害性については危険有害性の要約を参照。 応急処置についてはセクション4を参照。 最低限必要な保護具についてはセクション8を参照。 特殊な状況下や緊急時対応の専門家の判断により、追加の保護策が必要になることもある。 緊急事態応答者に対する呼吸保護: ハーフ顔かフルフェイスの呼吸器で対処する。また、流出と暴露のレベルにより、H2Sか自己呼吸装置(SCBA)が使える。露出が完全に特徴付けない場合、酸素不足環境になることが可能または予測される場合、SCBAを勧める。 芳香族炭化水素に耐性のある作業手袋の着用を勧める。

注: ポリ酢酸ビニル (PVA) でできた手袋は防水できず、緊急事態の場合
適合しない。

少量流出: 普通の作業服は適する。

大量流出: 化学的耐熱材料のフルボディスーツを勧める。

流出管理

陸上での漏出

- : 着火源をすべて除去する。(隣接地域での喫煙、フレア、スパーク
または火炎は禁止)。
危険を冒さずにできる場合は、漏れを停止させる。
製品を取り扱う時に使用するすべての器具はアースしておくこと。
流出物を触ったり、その上を歩いたりしないこと。
水路、下水道、地下または閉塞地への流入を防ぐ。
気化抑制の泡剤は、蒸気の発生を抑制するのに使用し得る。
洗浄済みの防爆型資器材で、吸収された物質を集める。
乾燥した土、砂、または他の不燃性物質に吸収させるか覆い容器に
移す。
大量流出: 水、噴霧は蒸気を抑制し得るが、閉塞空間での発火を
防ぐことが出来ない恐れがある。ポンプで汲み出すか、または適切な
吸収剤で回収する。

海上での漏出

- : 危険を冒さずにできる場合は、漏れを停止させる。
他の輸送業者にも警告を行うこと。
すくい取るか、もしくは適切な吸収剤を用いて水面から除去する。
分散剤を使用する前に専門家の意見を求める。
海上での漏出および陸上での漏出についての記載内容は、この物質
の最も起こりそうな漏出シナリオに基づいている。しかし、地理的条件、
風向、気温、海上での漏出の場合は波、流れの方向、速度によって
とるべき行動がおおきな影響を受けるかもしれない。こういった場合、そ
の地方の専門家に相談するべきである。注: その地方の規制により、と
るべき行動が指示あるいは制限されていることがある。

環境上の予防措置

- : 大量漏出: 後に回収し処分するために、漏出場所から離れたところに
堤防を設ける。水路、下水道、地下または閉塞された所へ流入する
ことを防ぐ。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い

1. 皮膚との接触をさける。
2. 滑りによる事故防止のため、少量のこぼれ、漏れをさけること。
3. この製品は電気スパーク(着火源)を起こす静電気を蓄積する
事がある。
4. この製品をバルクで取り扱う場合、電気スパークが存在する液体
あるいは、残ったアースや接地処置をすること。しかしながら、アース
との設置が、静電気蓄積からの危険回避を出来ないこともある。
5. 適切に適用できるガイダンスを参照すること。この参考として次の
引用がある。米国石油協会2003または、National Fire Protection-
Agency 77または、CENELEC CLC/TR 50404。

注意事項

1. 積み / 降ろし温度: 常温常圧
2. 輸送温度: 常温常圧
3. 輸送圧力: 常温常圧
4. 静電気蓄積: 本物質は静電気を蓄積する。
液体は通常伝導率が100pS/m (100 × 10E-12シーメンス/m) 以下で
非伝導体、静電気蓄積体であり、その伝導率が10000pS/m以下な
らば、半導体、静電気蓄積体と考えられる。液体が非伝導体あるい
は、半導体であるに関わらず、予防措置は同じである。いくつかの
要因、例えば液体の温度および、汚染物質、静電気防止剤の存在
や、濾過などが、液体の伝導性に大きくする。

保管 : 容器の選定、例えば、貯蔵容器など容器の選定により、静電気の蓄積や放電が起こることがある。
 適切な保管条件 : 容器を閉じておく。容器を注意深く取り扱う。
 内圧が高まっている場合にそれを逃すため、ゆっくりとフタを開ける。
 容器を冷所で、換気の良い場所に貯蔵する。貯蔵容器は、アースしなければならない。静電気蓄積防止するため、固定貯蔵容器、移動コンテナおよび関連機器は接地し、アースを取らなければならない。
 貯蔵温度： 常温常圧
 貯蔵圧力： 常温常圧

適切な容器 / 包装 : 船; ドラム; タンクローリー
 適切な材料およびコーティング (化学的適合性) : 炭素鋼; ステンレス; ポリエチレン; ポリプロピレン; テフロン
 不適切な物質および不適切な塗装 : 天然ゴム; ブチルラバー; エチレンプロピレンゴム; ポリスチレン

8. 暴露防止および保護措置
 許容濃度 / 基準値

物質名	形態	許容値 / 規格		注意事項	出典
蒸留 (石油), 水素化処理した軽質留分	蒸気	RCP-TWA	1200 mg / m ³ 165 ppm	全炭化水素類	エクソンモービル

注: 許容濃度 / 基準値は目安として示されている。適用される規制に従う。

設備対策 : 必要な保護レベルと管理方法は、潜在する曝露条件によって変わる。以下の対策を考慮する。
 許容濃度を超えないために、適切な換気を行う。防爆型換気装置を使用する。

曝露防止および保護措置 : どの保護具を選択するかは、用途、取扱い方法、濃度および曝露され得る可能性により左右される。本物質を使用する際の保護具の選択についての情報は、以下に示すように、想定し得る通常の使用方法に基づいている。

呼吸器用の保護具 : 設備的対応によっても空気中の濃度が、作業員の健康を保護するのに適切なレベルに保たれていない場合、国家検定合格の呼吸保護具を使用することが適当と思われる。該当する場合は、呼吸保護具の選定、使用および保守は法令に従わなければならない。
 本物質用に考えられる呼吸保護具のタイプは以下の通りである:

半面型フィルター呼吸器 有機ガス用吸収缶。
 空気中の濃度が高い場合、承認された空気供給式呼吸器を加圧モードで使用する。酸素レベルが適当ではない、ガス / 蒸気の警告特性が貧弱、空気浄化フィルターの容量 / 定格オーバーの場合は、緊急ボンベ付き空気供給式呼吸器の使用が適切であると思われる。

手の保護具 : ここで提供している具体的な保護手袋に関する情報は、公表された文献および、保護手袋の製造業者のデータに基づいている。
 保護手袋の適合性および、浸透時間は、具体的な使用条件により相違する。
 保護手袋の選定における明確なアドバイスおよび、使用条件での浸透時間については、保護手袋の製造業者に問い合わせること。また、使用前に保護手袋を検査して、すり切れたり、損傷ある手袋は、交換すること。

本製品を使用する際に、推奨できる保護手袋の種類は、次の通りである: 長時間または繰り返し接触しそうな場合、耐化学薬品性手袋が推奨される。前腕への接触がありそうな場合、長手袋を着用する。ニトリル
 目の保護具 : 接触が生じそうな場合、側面シールド付き保護メガネが推奨される。
 保護衣 : 提供された個々の保護衣に関する情報は、公表された文献および製造業者のデータに基づいている。本物質用に考えられる保護衣のタイプ

- 適切な衛生対策 : プは以下の通りである:長時間、または何度も繰り返して接触しそうな場合、耐化学薬品性、耐熱性、耐油性の作業衣が推奨される。
: 本物質を取り扱った後、手を洗ってから飲食や喫煙をするなど、常に個人で適切な衛生的措置を続ける。汚染物質を取り除くために定期的に作業着と保護具を洗濯する。洗濯できない汚染された衣類および靴などは廃棄する。確実な備品管理を実施する。
- 環境規制 : セクション6,7,12,13を参照

9.物理的および化学的性質

物理的状態

物理的状態、形状、色など	透明液体
臭い	マイルドな石油臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
流動点	-39
沸点/範囲	200 (392F)-250 (482F)
引火点	73 以上 (ASTM D-93)
燃焼範囲	下限:0.6容量%(推定値) 上限:5.0容量%(推定値)
蒸気圧	0.023kPa(0.17mmHg)@20
比重(密度)	0.798 (@15.6)
溶解度	水に不溶
粘度	1.68cSt(1.68mm2/sec)@40 2.16cSt(2.16mm2/sec)@25
オクタノール/水分配係数	データなし
発火点	251 概算値
分解温度	データなし

10.安定性および反応性

安定性	通常の条件では安定
避けるべき物質	強酸化剤
避けるべき条件	加熱、スパーク、裸火およびその他の発火源。
有害な分解生成物	この物質は、常温では分解しない。
危険有害性反応の可能性	危険有害性のある重合はおきないだろう。

11.有害性情報

暴露経路	結論/備考
吸入	
毒性:データ有り	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
炎症:データ有り	常温/通常取り扱う温度では、無視できる有害性しかない。類似構造物質の試験データに基づく
摂取	
毒性:LD50 > 1500mg/kg	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
皮膚	
毒性:LD50 > 3160mg/kg	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
炎症:データ有り	皮膚を乾燥させ、不快感、皮膚炎に結びつく恐れがある。類似構造物質の試験データに基づく
眼	
炎症:データ有り	眼に、短い時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある。類似構造物質の試験データに基づく

短長期暴露による他の健康有害性

ヒトでの経験や実験データから、亜慢性、慢性の呼吸器系又は皮膚感作性、変異原生、生殖毒性、発がん性、標的臓器毒性(単回暴露又は反復暴露)、吸引毒性その他の健康影響が予想される。

製品：上記の曝露レベルを超える濃度の蒸気/エアゾールは、眼と気道を刺激し、頭痛、眩暈、知覚麻痺、嗜眠意識不明を起こし、死を含め他の中枢神経に影響することがある。
 粘性の低い物質を長期間および/または反復して触れると皮膚から脂肪が除かれ、結果として痛み、皮膚炎を起こすことがある。飲み込むないし吐き出す最中に、吸引される少量の液が化学的気管支肺炎ないし肺水腫を引き起こす恐れがある。

IARC 分類（グループ1, グループ2A, グループ2B）：該当しない

12. 環境影響情報

ここに示す情報は、この物質、成分および類似物質のデータに基づいている。

生態毒性

物質 -- 水中生物に対して有害性あるとは予測されない。

物質 -- 水中生物に対して慢性毒性を及ぼすことは想定されない。

残存性および分解性

生物分解

物質 -- 易生分解性であると予想される。

加水分解

物質 -- 加水分解による変性は少ないと予測される。

光分解

物質 -- 光分解による変性は少ないと予測される。

大気中での酸化反応

物質 -- 速やかに空気中で分解することが予測される。

その他の環境影響(生態学的)情報

VOC(揮発性有機化合物): 該当

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

供給された物質を適切に破棄する。廃棄に関しては、その時点での廃棄物の状態に応じて、適用される法律、規則に従わなければならない。

廃棄に関する勧告

本製品は燃料として、密閉系の火力調整できるバーナーで燃やすか、または有害な燃焼物の生成を防ぐために特別に管理された設備で焼却するのが適している。

空容器に関する警告

空容器に関する警告(該当する場合): 空容器には残留物が含まれていることがあり、危険である可能性がある。正しい指示を得ないで、容器の再充填またはクリーニングをしてはいけない。空のドラム缶は適切に修理するか廃棄するまで、内容物を完全に取り出し安全に保管すべきである。

空容器は適切な資格を持つかまたはライセンスを受けた契約業者により、政府の規則に従いリサイクル、回収、または廃棄するべきである。容器に加圧、切断、溶接、ろう付け、はんだ付け、穴開け、研磨操作を加えたり、容器を熱、火炎、スパーク、静電気または他の発火源にさらしてはいけない。容器は爆発し、傷害や死亡事故を引き起こすことがある。

14. 輸送上の注意

国内規制

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上

消防法 容器

第四類第三石油類 危険等級

危険物の規制に関する規則別表第3の2

金属製ドラム(250L)、金属製容器(60L)等

(注) 容器は危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5に定める容器試験基準に適合していることを自主確認すること。

容器表示	一. 危険物の品名 第四類第三石油類 危険等級 潤滑油 二. 数量 三. 火気厳禁
労働安全衛生法	通知対象物ではない
海上輸送 (IMDG)	規制対象外
航空輸送 (IATA)	規定なし
国連分類	国連の分類基準に該当せず
国連番号	該当なし
追加の規制	現在のところ有用な情報なし
輸送の特定の安全対策および条件	1. 可燃物なので「火気厳禁」。 2. 容器が著しく摩擦又は動揺を起さないように運搬する。 3. 指定数量以上の危険物を車輛で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車輛に標識を備える。又、この場合、当該危険物に該当する消火設備を備える。運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。 4. 第1類および第6類の危険物および高压ガスを混載しない。
15. 適用法令	
化審法	既存化学物質
消防法	危険物 第四類第三石油類 (非水溶性)
労働安全衛生法	通知対象物ではない
労働安全衛生法 (危険物)	危険物等
化学物質管理促進法	該当しない
下水道法	鉱油類排出規制 (5mg/L)
水質汚濁防止法	油分排出規制 (5mg/L 許容濃度)
廃棄物の処理および清掃に関する法律	産業廃棄物規則 (拡散、流出の禁止)
16. その他の情報	
製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として取り扱う事業者提供されるものです。	
取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。	
従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。	